

# 昭和20年・水島大空襲と艦載機の空襲

大橋 一夫 さん

今年・戦後70年の大きな節目。私自身も79歳を迎え、当時の記憶を辿れば小学3年・9歳の私の体験は現実と思えぬ強烈なものでした。

「何故、戦争になったのか」

幾度も語り合う機会を持ちましたが、先輩・友人の中に鬼籍(1)に入られる方もあり、寂しい限りです。

これを機に歴史認識を深め、自分史の一部として語り継いでいきたいと思います。

## (1) 水島大空襲と北畝着弾

昭和20年、戦況は益々厳しく3月の東京空襲に始まり、標的が地方都市に及ぶようになりました。

ついに6月22日、水島大空襲を体験。当日は農繁期(2)で学校は休み、三菱も定休日。当時、北畝の畑ではサトウ木と麦の作付けが多く、この日は上天気。早朝から隣近所の協同で刈入れ作業、子供の私も手伝っていました。

作業が始まって間もなく、警戒と空襲のサイレンが続いて鳴り響き、最初は“またか”という軽い気持ちでした。

ところが爆音の凄さに今回はどうも違うと両親の話し合う声。ひとまず農作業は一旦中止となりました。

私の家でも、生家裏の防空壕ごうに老いた祖母を背負い、家族9人が避難した。外ではゴーゴーという飛行機の爆音が続き、加えて腹に響く重々しい音。父が、「どうも三菱工場方面に爆弾が落ちて大変になっているらしい。」と報告してくれた。好奇心旺盛な三兄と私は両親の制止を振り切り、銀杏の大木いちように10m程登った。南西約2km程先の三菱工場群が炎と黒煙に包まれ、薄汚れた上空には団子状の黒煙が点々と浮いて、今まで

見たこともない光景が広がっていました。広江上空から爆音が続き、目を転じると、10機程の編隊が三菱上空に進むと機体の下から爆弾が落ちながらヒュー、ゴー、ドーンと空気を裂く音がして着弾する。各機が同じ行動をするので舞い上がる火柱と広がる黒煙で凄まじい様が続いていく。

これを受けて、地上の各所から高射砲が反撃するが、残念ながら高所の爆撃機まで届かず、編隊の下で破裂して黒煙が散る。後日、米軍の記録には、総数110機程が約1時間の爆撃とあり、水島大空襲でありました。爆撃終了でほっと一息つくと、今度は最前と異なる南西方面から低空で爆撃機が2機、私達の木に向かって来るではないか。一瞬、私達が標的と錯覚、木から下りて生家まで逃げ帰った時、地響きと爆風の衝撃で2人共、数メートル、ハネ飛ばされた。何が起きたのかわからず、見れば生家の玄関障子が押し倒され、棧がバラバラに折れていました。

のちほど、500m程先の畑に落ちた3発の爆弾のためだとわかり、もう少し近ければと思い、ゾットする体験でした。

幸いに死者は無く、近辺の家屋被害のみでしたが爆弾片が数年、田畑から掘り出され、記念に保管している方もおられます。後にこれが呉工場地帯を爆撃のあと2機が飛来して中敵高射砲陣地を狙ったのが外れ、着弾したものとわかりました。

終戦後、水島港近辺は子供の遊び場ともなり、友達と度々、空襲跡を見に行きました。

鉄骨が折れ曲がり、むき出しになった建物、ガラス片が散乱し無数に空いた大きな穴、滑走路には飛行機の残骸、広い工場の<sup>はいきよ</sup>廃墟に言葉を失う。港東岸の田畑にも無数の爆弾跡、岸壁には不発弾が突き刺さって放置されていました。

## (2) 艦載機の空襲

戦時体験で一番恐怖に感じたのは、昭和20年7月の四国沖空母<sup>(3)</sup>から発進した何機もの艦載機による空襲でした。記録によれば22日、24日の2回、三菱工場<sup>びし</sup>関連施設と社宅、農家を襲撃した様子を今でも鮮明に思い出します。両日、学校は夏休み中、空襲警報で<sup>ごう</sup>壕に避難した。時折り、顔を出しては状況を見て戦闘機の空襲であることが判り

ました。特徴あるグラマン戦闘機が縦列で編隊<sup>(4)</sup>を組み、飛行士の顔が見える程の超低空で南から機銃掃射<sup>(5)</sup>をしながら北方面に飛び去っていきます。反転して南に戻りながら何度もこれを繰り返す。壕<sup>ごう</sup>に入っている弾がブスブス地面に刺さる音が伝わり、まるで間近で襲われている様で薄気味悪く怖い。敵機を迎え撃つ飛行機はこちらには無く、地上から高射砲で反撃するが、スピードに照準が合わないのか後々で破裂して当たらない。子供心にも誠に悔しく、はがゆい思いをしました。

後日、戦闘機に追われて逃げた経験を語る人、雨漏りで屋根の被弾が判ったと語る人、機銃掃射で負傷した人、臨海水島駅<sup>(6)</sup>では爆弾で屋根がめくり上がっている風景もありました。

年を重ねて今思えば、戦争とは、非情で、戦闘員である無しを問わず、銃口を向けられ命を遣り取りすることもあったと痛感します。

戦後70年も経ち、環境も世代も変わり、戦時の惨事を思い出させるものは今は無いが、銃後の戦争立会人の1人として、歴史認識を新たに持ち、語り継いでいきます。

- 
- 1 鬼籍に入る...亡くなること。
  - 2 農繁期...田植えや収穫などで、特に農作業の忙しい時期。
  - 3 空母...飛行甲板を持ち、航空機運用能力を持つ艦船のことを言う。
  - 4 編隊...2機以上の航空機が一定の間隔、隊形を保持していること。また、その隊形。
  - 5 機銃掃射...機関銃で敵をなぎ払うように射撃すること。
  - 6 臨海水島駅...水島臨海鉄道の水島駅。